

# 砺波カイニヨ倶楽部会報

第二十一号

平成十四年二月発行 発行所 砺波カイニヨ倶楽部 代表幹事 柏樹直樹  
事務局 富山県砺波市表町七二十五 TEL 0763/33/6588  
天野一男建築工房内

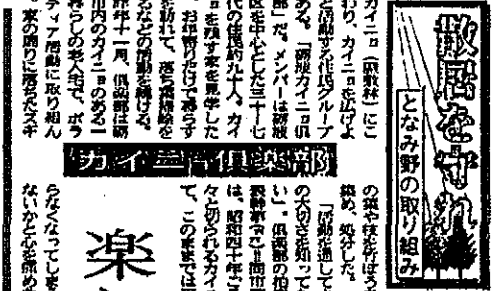
## 『市保存樹林の

## 矢農さん宅の清掃』

昨年十一月十日(土)午前八時過ぎから、矢農ゆり子さん宅(砺波市神島)の屋敷林清掃を当倶楽部で行いました。矢農さんは一人暮らしに加え、最近体調をくずされ入退院を繰り返されていますが、当日は、会員の清掃を窓越しに喜んで見て、「ありがたい」と何度も口にして見えました。

この矢農さん宅屋敷林は砺波市の保存樹林に指定されていて、広く大小、木の組み合わせ樹種の多さでも、重厚な味のある内容をもっています。当日は会員十六名が参加し、庭から表場の落葉、枝を整理清掃しました。地区の民生委員の吉田一衛さんも参加されました。

あいにく十時過ぎから雨が降り、掃除は家のせとまでやれずに終わりました。掃除のあと隣の柴田清さん宅の車庫をお借りし熱い豚汁にニギリメシで腹を暖めました。「奉仕の仕事は夏場で、子供達も入れて楽しくやった方がよい」という意見も出されました。又、当日の作業を北日本新聞が取材し報道されました。



そんなことから平成九...  
年、柏樹直樹は...  
砺波カイニヨ倶楽部...  
の活動に...  
参加し、...  
清掃活動...  
を行いました。



砺波市神島の屋敷林の清掃活動をする砺波カイニヨ倶楽部のメンバー(昨年11月、砺波市神島)

## 楽しみながら良き学び

砺波市神島の屋敷林の清掃活動...  
楽しみながら良き学び...  
を通じて、...  
地域の...  
環境を...  
改善...  
することに...  
貢献...  
しています。

北日本新聞1月21日掲載



当日の様相 落ち葉掃除をするメンバー

## ♪お知らせ♪

今回の会報には  
「庄川流域森とまち・海をつなぐ  
交流推進協議会」から  
届いた広報誌、行事業内と  
「となみ野田園空間シンポジウム2  
屋敷林の保全と地域づくり」の  
パンフレットを同封しています。

興味のある方は参加してみたい  
かがでしょうか？



## ■近況報告■

北日本新聞で「散居村を守れ  
となみ野の取り組み」  
と題した記事が連載されています。  
当倶楽部も第二回目でその活動を紹  
介されました。

先日、全国散居村サミットに参加  
している七つの市町に当倶楽部の様  
な活動を行っている団体の紹介を依  
頼しました。

その中の一つ山形県の飯豊町から  
返事を頂きましたが、残念ながら保  
全活動等を行っている団体はないと  
の事でした。



# 『田園空間博物館構想を考える』

## — 散居と屋敷林 —

「コア施設」に沢山の意見

ソフト面の活動こそ大事との声も

十二月一日午後、チューリップ公園内

の中島家の広間で囲炉裏を囲み「田園空間博物館構想を考える」話し合いを行いました。この話し合いを傍聴し、意見交換もしたいと、砺波市議員七名も加わり総数四十名の集いとなり、沢山の意見が出されました。これには、県がどんな計画をしているのか、会員でもある中松敬之さんの説明を受けました。

主な意見は次のとおりです。

◇ ◇ ◇

- ・農機具展示は資料館でやれるではないか？
- ・人の来る施設でないといけない。農機具を飾るだけではだめだ。体験の場も欲しい。
- ・集落協定の規模や景観条例はどこからどう進めるか。
- ・固形燃料を作っても販路が問題
- ・町の人に楽しんでもらう事業ではだめだ。施設は誰のため、何のためかを明らかにすることだ。
- ・住民協定を作る試みに関心は大きい。
- ・枝うちでレッカーを使うと二十八万円もかかった。次第に屋敷林は残しにく

くなっている。

・雨樋や屋根に落ちる落ち葉の処理が苦痛になっている。

・カミキリ虫駆除をしつかりやる必要がある。

・伐採したら、次の木を植えること。

・ミュージアムの新設を市民は求めている。むしろ今ある施設の活用を主体に考えた方がよい。

・杉にこだわらず広葉樹、花木の導入を考えることだ。

・住民の声を聞く機会を作って欲しい。作って与えられた物ではだめだ。屋敷林等の調査に参加する機会が欲しい。

・子供達の価値観は大きく変わってる。屋敷林についての相談のできる人が必要だ。

・施設の中に、ソフトの充実に役立つものを配置すること。

・内容、価値の再発見、技術や改良につながる物を施設に求めたい。

・こうした「散居や屋敷林」をどうするかの話し合いを各地区、常会でやっていくべきだ。

・散居住宅フェアも考えたらどうか。

・散居に似合わない電柱、広告、建物の再検討を。

◇ ◇ ◇

こうした沢山の意見を、県の計画や施策に反映してもらおうことや、各地域、議会でも話題にしてもらうことを期待し五時過ぎ集いは終わりました。

当日の司会進行を柏樹代表幹事が行いました。冒頭「倶楽部はNGOであり、肩書きなしで自由にやって欲しい。又、倶楽部の役目は利便、合理性オンリーから立ち止まり考える場、これからの時代は、時間をかけ、体をかけ、自然と共に生き方を地域で考える事が重要だ」と挨拶しました。

この集いを富山新聞が地域ニュースとして報道しました。



みなさん真剣です



砺波散居地域研究所例会

講演と研究発表

○時 三月二日(土)

午後一時三十分

○場所 砺波地域職業訓練センター

二階視聴覚室

○講師 東京農工大学農学部教授

鬼頭 秀一 先生

○演題

新しい環境倫理と地域景観保全

と人間と自然の関係性の構築

他に研究発表もあります。

ぜひ聴講下さい。

ぜひ聴講下さい。



■例会記録「小都市郡と散居」の収録ビデオを貸出します。

※問合せ 砺波散居地域研究所

(郷土資料館内) TEL 32-2339